

第49回全日本中学校陸上競技選手権大会の男子三千円決勝が8月19日(金)、福島市のとうほう・みんなのスタジアム(あづま陸上競技場)で行われ、増子陽太選手(鏡石中3年)が8分18秒49の大会新記録で優勝しました。

8月10日(水)に青森市で行われた東北中学校陸上大会の共通男子三千円では、それまでの日本中学記録を2秒80も更新する8分15秒04を記録し、今大会でも活躍が期待されていた増子選手。スタート直後から積極的に飛び出すと、前日の予選よりも速いペースでトラックを周回し、中盤まで先頭をキープし続ける安定した走りを展開しました。先頭集団5人の争いとなった終盤には、スパートをかけた選手に一時先頭を譲ったものの、「これまでの大会でたくさん選手と競い合ってきたので、焦ることなくラストスパートに切り替えることができました」と、徐々に距離を詰めて再びトップに立ち、



自分の走り貫き

そのままゴールへ。日本中学記録保持者の貫禄を見せつける圧巻の走りです。レースを締め、終わってみれば、先頭集団で競り合った上位5人が大会新記録を樹立するという大激戦となりました。

競技終了後、増子選手はこれまで指導に当たってきた鏡石中学校陸上部顧問の齋藤剛教諭と固く握手を交わすと、応援に駆け付けた皆さんの元に駆け寄り、感謝の思いを伝えていました。また、表彰式では、東北大会で競り合い、今回の決勝でも熱い攻防を繰り広げ、増子選手が「全中を頑張ろうと思えた良きライバルです」と話す菅野元太選手(山形県・山形十中)と互いの健闘を称え合いました。増子選手は「これまで支え、育ててくれた先生やコーチには感謝しかありません。地元開催でたくさんの人に応援され、『絶対勝つてやる』という気持ちでした。最初から自分のレースができたと思います」と振り返りました。

大会新記録のタイムを示す電光掲示板の前で、固く握手を交わす増子選手(右)と鏡石中陸上部顧問の齋藤剛教諭



全中陸上を終えて

増子選手インタビュー

——全中陸上大会新記録での優勝おめでとうございます。日本中学記録を更新した直後で注目が集まる中でのレースとなりましたが。

増子選手「プレッシャーはありました。地元・福島での開催ということで多くの皆さんから応援をいただき、平常心で走ることができました。——全中優勝という大きな目標を達成しました。今何かやりたいことはありますか。

増子選手「陸上とは関係ないのですが、お世話になったコ

精神面で成長

——イチと焼肉を食べに行きたいです。

——これまでも多くの輝かしい成績を収めている増子選手ですが、伸び悩んだ時期もありましたか。

増子選手「昨年夏に行われた通信陸上大会で、自分の強みを発揮できずに終盤で次々と追い抜かれ、苦しい時期がありました。先生やコーチから精神面の強さを養うことも大事だと教わり、メンタルトレーニングに取り組みようとして『つらいときこそ前へ出る』という意識を持つようになりまし。その年の秋にはふくしま駅伝で区間賞を獲得することができ、成長できたなど感じました」



——町民の皆さんに伝えたいことはありますか。

増子選手「今まで支えていただいたことに対し、結果で恩返しをしたいと思っていました。自分の走りですしでも町に元気を与えられることができたら嬉しです。——今後の目標について教えてください。」

増子選手「直近では、ふくしま駅伝、昨年中止となつてしまった全国都道府県対抗駅伝で1秒でも速く走り、チームに貢献したいと思っっています。そして高校ではしっかりと自分の土台を作り、大学では箱根駅伝に出場して区間賞を獲得できるように選手になりたいです」

増子選手をいつもそばで支えてきた皆さんからメッセージをいただきました



●**齋藤剛さん**(鏡石中学校陸上部顧問)
日本を代表する陸上選手になってほしいと思うとともに、人の痛みが分かる、人のために何かをしようという気持ちを持った選手に育ってほしいです。



●**佐藤靖弘さん**(かがみいし SC 理事長)
日本中学記録更新、そして全中優勝おめでとうございます。今が頂点ではなくまだまだ伸びしろがあると思っています。良い選手となることを期待しています。



●**森尾知之さん**(鏡石町駅伝チームコーチ)
「最後は気持ち！」速い選手ではなく強い選手に成長しましたね。全国から注目される選手になりますが、人として応援される選手になることを期待しています。



●**石井智大さん**(かがみいし SC コーチ)
現状に満足せず、常に向上心を持って取り組んでいる選手だと感じています。これからも自分の好きなように走り続けてほしいと思います。